

丹鶴叢書

萬代和歌集 十五十六



8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4

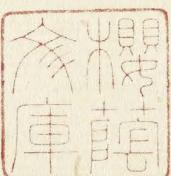


萬代和歌集卷第十五

雜哥ニ

ゆふほくよとよみ傳シする

さうゑ



あくのをとくにすすめをもつて又月おおがまくも我そまやん  
延喜時時月どろもまきとりすらとまかたのひのそ

まのうの歌はのうまうまふくあほそくまきくわ

よみ傳シする

さうゑ

てる月どくうかくもりよとまとじくとまつていはよまかくも  
おみまきくわ月と 前參拜親陰

まくらひるよしやのひめかわくとてのうたうの月  
いさよひの月を 令太后宮大ちへ後が  
宿すふおもむきとてをも景すまくまくいよいの月  
御まちは月とてよみゆけりふ

## 扶室使の任

ねまきとておとせりおとせりおとせりおとせりおとせり  
月とておとせり

小蘿

まくらひ出せとての月とておとせり又なまくけり  
内裏とて月とておとせりおとせりおとせりおとせり

## 土羽年

五

傍書 田上のがくへ  
月あくまくまく  
うとくひとくひ

## 俊軒歌

新千載唐一  
やまとくちくちくちくちくちくちくちくちく  
月あくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

月いとておとせりとておとせりとておとせりとて

古のよむとておとせりとておとせりとておとせりとて  
後高麗お改家とておとせりとておとせりとて  
藤原隆佐歌也

見とておとせりとておとせりとておとせりとておとせり

## 俊志法師

しともいひとておとせりとておとせりとておとせりとて  
郁弟の院とておとせりとておとせりとておとせりとて

月の聲も夜も月の聲も

六条右大臣家

室玉詞卷

月の聲も夜も月の聲も月の聲も月の聲も

月の聲一

郁芳門院

同雜一

月の聲も夜も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も  
月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も  
月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も  
月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も

千里

月の聲も夜も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も  
月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も  
月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も

大江匡衡歌

新十載盛三  
基俊

月の聲も夜も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も

月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も

月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も

月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も

月の聲一

八条院三全

月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も月の聲も

月とみゆゑ

平康頼

なまづとて其の夜のめまぐる月やほのねうたまわし

西川はば

あもしらむおもむとよもよも月と友よおひびき

楊寺とまつて月とゆく

宍道は伸

あくやうすちあさくとよも月とあみて

まくらじ

てまくらじ

清輔胡玉

かよひは月のやうとあくやうすちあくらじ

雲向月とまつて

薄庵隆信新作

あがくとせくまゆく月のとじまとされがくまゆ

あがくとせくまゆく月のとじまとされがくまゆ

は下良等

あはぢまゆのやうとあくやうすちあくらじ

月と

冷橋春擔

誓一本

唐のまゆのやうとあくやうすちあくらじ

あ大納言頼經家の月とまつて

森系教院新作

神のうへたまどひよもああるくす月ハシモ

さに三十日 嘉陽門院越前

アドリモホシヒテルト、おながくのをひの月

夜涼待月とひこと

大江喜言

おもむくはいつも月新とひるがくはくの月

続吉月前述猿卷二

三月

こももみくも月とひ月とひ

後涼大寺たたは

徳古今雜下れ徳古

色一色 涼之位頬改

五

後惠法師

たゞもしあわせの月とひ月とひ月とひ月とひ月

正月うねゆふ 殿富つ院大浦

その中おもてよづくもあらじもと月とひ月とひ月

月のとひがほくよ大浦のとひ月とひ月とひ月

選子内親王家右を

ひまむねの月とひ月とひ月とひ月とひ月とひ月

かく一 国家大浦

かくもむくの月とひ月とひ月とひ月とひ月とひ月

選子内親王

風月よしのとひ

風雅秋中

たいへんす

土居の院清巻

鏡後拾遺雜上

七とその村のこゝへとまつておもむく  
鏡古今雜下

やあよもやあまきうけの有いよのをひるはと  
鏡告

入道も承改を大せ

せぬなまく日のやまがほりねくのあへせう

結婚經のふとよ 前大納戸為家

佐ノあらそめの源のゆきまくのゆきまく

月とくみる

促三位伊ち

うきくわあくわくとくとくとくとくとくとくとく

光俊おちとまくせけむ十のゆふ

鏡主載秋下

蘆屋門院但馬

りまどいよもよもさすせう月の絆のぬをまくのゆ

貞應のうよみほのるとくのゆふ

入道も承改たぢち

あくづくとくとくといひのりくおもこあらすのぞむ

後清性も入道翁昇ものた大也の時をまく

太宰大前主家

のゆふもおひだりとまかしも月へれどもおもくとまか

といへらま

はら行因

あつやまよもの月とくとくとくとくとくとくとくとくとく

藤原成宗

あくまの月とやうじとくらぶをひねる神の法子  
あくまの月とやうじとくらぶをひねる神の法子

続古今雜下

あくまの月とやうじとくらぶをひねる神の法子

前圓丸たちち

月催舊情とくらぶ

右弓衛門基氏

月催舊情とくらぶのあくまの月とくらぶ

月催舊情とくらぶ 正三位成宗

万

月催舊情とくらぶの月とくらぶの月とくらぶ  
は月催舊情とくらぶの月とくらぶの月とくらぶ  
は月催舊情とくらぶの月とくらぶの月とくらぶ

大助、玄實家

月催舊情とくらぶの月とくらぶの月とくらぶ  
月催舊情とくらぶの月とくらぶの月とくらぶ  
月催舊情とくらぶの月とくらぶの月とくらぶ

法印元性

月催舊情とくらぶの月とくらぶの月とくらぶ  
月催舊情とくらぶの月とくらぶの月とくらぶ  
月催舊情とくらぶの月とくらぶの月とくらぶ

仁和も入道ニ承親王も見え家三十多ア

法橋題照

月催舊情とくらぶの月とくらぶの月とくらぶ  
月催舊情とくらぶの月とくらぶの月とくらぶ  
月催舊情とくらぶの月とくらぶの月とくらぶ

種系顕仲翁也

是事はかくもじよてあらうとおもひ月がまわさ

まいしらひ 宜秋門院丹後

しのむらさきよ月の氣をもぎめもぎめの氣を

走仁元年五月

後高麗校改太政大臣

続後月のあゆふ

ちやうにといふ事も御の月を新うまう  
結縁絆のあゆふ 萩原佐実翁也

走仁元年五月

月のあゆふ

ちやうにといふ事も御の月を新うまう  
後高麗校改太政大臣

続後撰秋申

西川法忠

玉葉秋下題不知

うみの月のあゆふ年二月

月生涯友

氏教アホ翁

まつも純とひるか林の月のあゆふ年二月

參議脩翁

アーリヒトアーリヒ月のあゆふ年二月

光復二月 津ちふ屋

あまくもたまくもかく純とひるかの園もと月新

道翁法師

続古今雜下題不知  
の事はまことに老いたよつてうるのつまつた  
よつてうるまく白くまつた

赤ほあら

あらはせりわちひりとまつてあらゆるしのまく月  
月とくにけり　慈徳大内  
七十のひのとまつてあらゆるすくのうつも七月のけ  
寄月述情とくまとと

法アあらは月をすまうのとくとくとつとくと  
徒二位家隆のまくと月と

西園ち入道ち太政大臣

注三位隆宗

続後月のちのまく

続後撰雜中

と一本続後

続後拾遺雜下

萬葉集第三卷

歌

萬葉集第三卷

續後拾遺雜中

と一本續後

麻葉は

はるかめりくふむかをもあくよぶくもおこひのもの  
後法はも入道あくまう右大臣のとくおがく  
小月前半腰ま　太宰大臣ま  
まく

新後拾遺雜秋

ソトトヨモアキトタマモカニテ月とおもひて  
ノ月とえけふおもひてやうじか  
スケムシハシマリム

小辭

季節小風の月はなまくらむとてやうじか  
エヌシガホサフ ハツルサキ  
ノキトモアキアツクモアシテウツモイー左の月  
トモタツム向とて 西川法師  
諸事多く月のあすかにまつわるアラシのひづれ  
さきに三十日  
意得大修正

万

王葉秋下

ソトトヨモアキトタマモカニテ月とおもひて  
ノ月とえけふおもひてやうじか  
スケムシハシマリム

小風の中  
藤原院祐

小諸本

カニアキアキのちにひきのひどめくる月新  
キ保内玉衣かべり古の月と

正三位初家

鏡後撰雜中

サトトヨモアキトタマモカニテ月と  
ノ月とえけふおもひてやうじか

即ち

太政鏡後  
あお坂たかせ

鏡後撰雜中

鳥羽のあやのくわよかとあるみをあくらむ

六帖題のうち中下 萩原信実致

（ふくよふまつひ）をあそびへたるがおまかせを

ま保内義義が今ア一時の事と

藤原康光

徳後撰雜中

三年徳後

甲子の二月の尾の日、新小治トモシテ御用を

庚申夜待曉と云ふ

小 築

徳後拾遺雜上

ちよどき御よしむともあればあれのこの中のものか

建保四年院侍をさう

西園入と太政大臣

万

参議雅経

（ひのくわ）むとまくつてはあそびにからむよき  
車（くるま）をまくすとまくすとまくすとまくす  
あらねがまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
車（くるま）をまくすとまくすとまくすとまくす  
あらねがまくまくまくまくまくまくまくまくまく

徳後拾遺雜上

朱雀院侍

新小治

（ひのくわ）のまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
車（くるま）をまくすとまくすとまくすとまくす  
あらねがまくまくまくまくまくまくまくまくまく

同

（ひのくわ）

皇太后宮 穂子

白きのひのくわやあくわと同一とまくすとまくす  
あくわとまくすとまくすのとみくわくわとまくす

まいりくわ

中納言事輔

徳後拾遺

（ひのくわ）とまくすのとみくわくわとまくす

菅原經太政大臣

十五ノ十一

忠 宗

玉山田子住侍三郎  
タ日山ノヘカサの  
ミツシテガタスル  
ヘキモニシテハ

玉葉雜二

日ノヨリ山のわふるタのほとれを  
シテモトハセキモトハ  
ミツシテハセキモトハ

山田法師

内あり玉

慶政上人

法子ノ山をゆく入出又ゆきまつりお

桔中納長方

あもしろい山の山川を嘗めたり船のまのじさ

太神宮ノキモモを祭ひむるはまの山小

後鳥羽院御裏

夕風とよきと  
和氣とよき

夕景もいあるけそめくまの風のよきとあらしとあらむ

萱草と  
菅経大臣たち

主あるがすまうすまうすまうすとてのまちとあらうて

中納之助

行財もあくまでもおもてんとまくとまくとまくとまくとまくと

大おふけをかたむをのみまくとまくとまくとまくとまくと

大納言御先

心をもとめども身のまゝのうへは、約のわざを強  
和ひやがれなきうへてあつてあるあらざる  
ことあるむとは、もくとけんじゆす

大江雅政御先

あくたまふりへもかううふるがつむとすに  
仕事大浦をまつたのもたぬまこと  
なまこもつづくくはくまこと

赤海馬

王集雜五

六帖題歌中少 まお大納言御家

前中納定家新軒撰集の御家時

先祖のうもるく侍道とて

よみがてつる

淨吉はば

燒後撰雜中

石と

僧教遍救戒牒をあつて仕合とつて

もく

前大佐正明

燒後拾遺雜中

もの風ふきえすとよかねいもまくは、かもほくま

著駄政とくとく

そ命法師

ちがも今かとてあらわすとおのづかひをうそと

廷尉佐とおもて一政とまゆも拂ふこと

おこなふとくわくとくわくとくわくとくわく

たとふ特定嗣

まことさみだれあはれとくわくとくわくとくわく

まことくわく 惟宗成長

まことあいとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく

ナレ

燒後

本草等としむる付けるつてう

丹波經長

まこと苦の経とまこととくわくとくわくとくわくとくわく

同上

燒拾 長恨哥のう

楊君犯とトミ体

已下ナシテ

五大納光軒

燒拾遺雜下

陵園妻と

棺中納まし方

春のとくわく秋のとくわくとくわくとくわくとくわく

此日を初荷境妻多生曾被ふ塵侵水

まつりと 拾宝使陰衡

まこととくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく

まことくわく 求子内親王

まこととくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく

燒拾撰雜中

選子内親王さとひのうちを放さんとく生うぶたまむ  
ノ又またまもじまのまもじまがくわやども

新干載表

絢太皇太后宮あま

あさとのかくまのひづれのひづれのゆみゆみをあさのゆみ

かづせ新干

いづうなまくとたまくへりゆ

同袁

天曆清裏

君のやめかくまのゆみゆみをくまくとく神かみとく

ねづかくまく清きよく 小町

おとこくらみの本ほむぢやくとくとくまつがくまくと  
まくと院いんうけくまくたまくとく江え寺て先さと

りすと顎あごはくまくとく

是これ判はん

続古今雜中

玉葉雜三

けじののひのねおれうづく物ものくみすおとこのとくとく

躬躬恒つね

續古今雜下

三条右大臣家厚風ふうのす

貫貫之

續古今雜上

りくすとくわくたまくとくのねやくわのとくがくも  
高たかがのねとくとく能のう因いんは師し  
徒たくとくもぬくぬるのとくとくのねやくわのとく

まつめさくらは

前參議忠定

続後拾遺雜上

まつめのあたをひなす。誰ともかたむことのまじく。そぞ  
うもあわへはるわの事じへんがまく。

まつめのあたをひなす。誰ともかたむことのまじく。そぞ  
うもあわへはるわの事じへんがまく。

二三の新元役平

続後拾遺雜上

まつめのあたをひなす。誰ともかたむことのまじく。そぞ  
うもあわへはるわの事じへんがまく。

寄附述情とあるてす

大藏つ爲長

新千載神

一まつめの千字のまきのたすくちやがあわへよし。住  
まかねとく。甚後  
まつめの千字のまきのたすくちやがあわへよし。住  
まかねとく。甚後

五

松岡友居イ本仁和入道ニ西就いぬ同上是性

もみゆくいふをもむの病ふあく一もみゆくねも一本  
玉もみゆくねも一本

後鳥羽院侍衆

まつめのまきのまきのたすくちやがあわへよし  
色へらひ 宗臣法師

まつめのまきのまきのたすくちやがあわへよし

菅原孝標女

続後拾遺雜中

まつめのまきのまきのたすくちやがあわへよし

雨のまきのまきのたすくちやがあわへよし

お大将を得也

あらへどもかひきの三井のうえのまがれを生じ  
ほじ院は村のをまづけと

後頬ゑ也

徳古今雜下

三年のうちゆきをくわむるのハシマリアリ也と  
家前木とすと 美品法親王 静仁  
新刊載雜中題不知  
秋ノ木もまとの三井がまくらちの昔とあるてめに  
まゝ、一、二とて 法印実佐  
やまつらを油のまくらひのゆがまくら  
きとまむのは九月をもののそも

四  
草 德後拾  
徳後拾遺雜下

脩院大武

またまたのゆきのまくらもかまくらのゆがまくら

五  
周防内侍 建保も襄

五  
金葉雜上 家とふ  
うふまくらのゆ  
うふまくらのゆ

周防内侍 住むよしのゆのゆがまくらのゆのゆ

一  
周防内侍 住むよしのゆのゆがまくらのゆのゆ

一  
懷旧も襄とよす你ノふ

草  
藤原隆信も襄

こはやまのむりかわすよしのゆのゆがまくらのゆ

玉 東三條  
女脚微子女王

王葉雜三

神あらへまつてまつてあらへまつてあらへまつて  
かくすのとくまきのあらへまつてあらへまつて

徳千載雜上

土門の院御製

風長和五年四月雨の  
玄公任つて大納

風雅雜中

の風

今も康吉の宿よりと向ひあそぶのをとどむ  
うおとくよもよめのをとどむと  
人のよみがえりのをとどむと

徳千載雜中

清か納も

よしよしよしよしよしよしよしよしよしよし

せうせうせうせうせうせうせうせうせうせ  
和氣或致

おもむけとおもむけとあおむけとおもむけとおもむけと  
おもむけとおもむけとおもむけとおもむけとおもむけと  
おもむけとおもむけとおもむけとおもむけとおもむけと

百首あよやを終ひふふこけと

土門の院御製

徳千載雜中

おもむけとおもむけとおもむけとおもむけとおもむけと  
おもむけとおもむけとおもむけとおもむけとおもむけと

仁和二年親王もとまの三十

周居と 三條入道たちち

といふ人があつて之の吉つみふるひととあるま  
入道ニ品親王もとまの三十

あや納ら定家

時明あせそとのよきとよしのよこも  
めくすくはうむさむる

尋ねよと跡をよひぬあくよ因一通すあくよ

あく

源時の胡弓

よひよひよひよひよひよひよひよひよひよひ

後拾遺雜上

さくさくよひよひよひよひよひよひよひよひ

よひよひよひよひよひよひよひよひよひ

万

あ様作る偏円

あくよひよひよひよひよひよひよひよひよひ  
は下良ち

半まよひよひよひよひよひよひよひよひよひ

真照法師

三よひのとひのよひのよひのよひのよひのよひ

外記廳結政座小古宮のよひう一本いよい  
よひよひよひよひよひよひよひよひよひよひ

中原師光

後拾遺雜中

古のあくよひのよひのよひのよひのよひのよ

峯とよみゆゑる。二条太皇太廟おほやま持は  
あてゆきよみのあへ。おがおもていそりふのくふまき  
出をれゆくうつむきくはらまかくまよのち  
よみゆゑる。中納なかなミ隆家

田の山やあさく夜のよは。教のくつあむむかのとハ  
まくらへらまく。能因法師

若きは。伊勢とては。うと多とおもへどとのれ  
いのくみゆゑくまとて。林家

林とよみゆゑる。中納

萬代和歌集卷第十六

雜哥三

題不知

よみゆゑらまく

もくげきあらぬのやし。おとす名のよきぬひ。おせのね  
衣のきよきよ。あらゆるのうひのふ。おとすまく  
藤原保昌。わき丹後。ちよ。中納。くわけ。小  
和良。おおひよ。よとく。よとく。はらまく

中納定賴

徳吉今別

と徳吉

おとすや。おとす。よとく。ひ。ふ。おとす。じよ。おとす。  
のう。同一本  
後法性。入道。おとす。白右。ちよ。の。おとす。

皇太后宮大内後成

春をじ秋をもすらとあそびこのよのへとよ移ざまし  
山海苦ともうと 老いたちわ東を

吉野やたまなむに詠すむまき葉を散らむるのむか

まくららま

小町

続古今雜下

あすくわがまくらもと移らの月もまくら  
花のやうなつゝほら風取らむよしにほり

うける

静觀修正

続後撰

まくらもとあきてまどひの喜提やうゆきぬめを

寝のひととく やまはほゆ

あすくわがまくらもと移らの月もまくら  
石山やまのまくらとまくら

周防内侍

あすくわがまくらもと移らの月もまくら

まくららま

下野

あすくわがまくらもと移らの月もまくら

正徳やまのまくらとまくら

源俊平

まくらのつけまくらを引きとれ川よいとくもあま  
修りてほらまくらとまくらのまくらのまくらと

前大傳の道慶

わがのまづひのまづひの枝とあらむのまづひのまづひのまづ  
やまへりとまえ 二条院譲岐

まづひのまづひをめぐやや林からぬまづひとまづひのまづひ  
御大傳もる家のもく方

達筆法師

登一本

燒干述情のあゆ事  
後一条入道  
前室白龍太臣  
燒干載雜下  
ハシタハ燒干  
いふきんつまほのあそべとすけは裏も仕うがけり

六帖題哥のサヨ故鳥と

正三位ちむ

山原りもやま原みや鳥あむこのととかくともかくハ

たいへんも

藤原義孝

在ゆの月とよづくのとよづくのとよづくのとよづく

塔の院御時後

俊頼朝臣

夏の月あいのまづひもふがくもあいのまづひもあいして

色へらす

基俊

うどく歌あいのまづひもふがくもあいのまづひもあいして

新千志のあゆ

焼後おゆくせん

焼後撰雜中

口づきまくらをあわせのうめあわせがく

新千載

恋三

馬内侍

まもじ林風あらかわむすめのむす

中納言

本

梅のむれもじ黒い人かくして

牆根毒花

源道時

やま風さむめしやあかがみの梅は枝は

山家よけもよよと

落水

やま風さむめしやあかがみの梅は枝は

山家見花

酒食右大臣

梅のむれもじ黒い人かくして

山家よけもよよと

落水

やま風さむめしやあかがみの梅は枝は

山家よけもよよと

四象大臣たてふ

うきりとまつわと山のふくらみへ

にかのく道二品親もち見家ミナミア

ゆきよたたかち

教人やへりおどりのやあらはまのけりと  
花歌のゆうへ 西園も入道も大改ちも  
山田ももこもせんがくもーぬ教のへうとひま  
の一本

ヤモイーらむ

恵美は何ん

風 大高院の女房春  
秋の氣とあるひぢ  
タムカおもひのひの  
ハ秋の氣とひじ  
タム秋の氣と

人をいざれましめの山里ふる野の席のあいだに  
秋の夜のあいだにあいだにめはくとやねま  
のあいだの一せんとすまくもととあるまくさる  
林のこうじ里ふる野のあいだにしつ

風 雅秋下

選手内親も中務

山里ふる野のあいだも

同家中持

秋のあいだも

林のあいだも

玉山八月より

新秋

わえひなせ

菅原孝子様女

玉葉秋下  
あくれ玉

八月のあいだも

あいだも

三滴

あいだも

まほの衣秋十月あひて 杜懷

ナシと

大和てき家

続古  
秋上

秋上

秋機あ合ふ 後鳥羽院御裁

続古今秋上

中風むかとぬ冬きのいの村

成木  
関白一本

情性も入道も教政も政をせ

しめどもれどもゆめくらむとひじまつまつ

まいもん

參議資季

山風もとくせうのるはれ秋のあひまもきつまつ

太神宮よりまきめく風もまく風もすせゆ

後鳥羽院侍幕

やまとの山風もまのれひくまくまくの風なる

大京もとくせうのるはれ秋のあひまも

せうのりやくはせうのり 菊たきお猪

新千載雜中

月もとくせうのるはれ秋のあひまもくはく風

十月もとくせうのるはれ秋のあひまもくはく風

絶式部

山風ハ時風のうがつにむすめと被ふてうとうけも

絶吉社亦方もく 旗亭光俊和也

くまでもいとまもとくまの風のまくのえあはく

まへりとす

藤原院佐野主

あはれもことひがたるにとくめんむかひけむち  
法性の入道が事の右方の時をもつて

法性の入道が事の右方の時をもつて

宦秋門院丹後

徳後拾遺冬

じゆくさむらひゆきあもとよどみ人を送

皇太后を失候ふ

徳古山家

同のうけ半小 桂大佐教子源

山里ハヤシのむらにまつたる月のもの

法平元性

徳古今冬

徳古今冬

徳古今冬

まへりとす

山里ハヤシのむらにまつたる月のもの

良運法師

まへりとす

たまな支遁於家隣より

以報承教也

山里ハヤシのむらにまつたる月のもの

正義の中ふ やを保清叢

まへりとす

がくひのあはれもとあもとよのきのまへりとす

玉山家のくわ

玉葉雜三

新後拾遺雜上

あ大臣ありす

翁のへりよやめくわゆどがくひのむかはせらる

山里に住まつてゐるよ

大計三位

あくまくのまかまへまの下とゆのあめのまきう  
あくまくの小郷

日向のさくら家あさくさきのまふやまきいもゆ

正三佐中

式子内親王

さしやさなめぬ物とまのとくわあゆゆのま

松尾社を今りと家事と

後鳥羽院御裏

山里のまづまつとまと神さづけてとくまなま  
山家のひと

意徳大臣

山里のまづまつとまと神さづけてとくまなま  
山家のひと

住吉社サカシマ山家と

正三位如意家

まづまつとまと神さづけてとくまなま  
山里のまづまつとまと神さづけてとくまなま

神里をばす

続後拾遺雜中

山里のまづまつとまと神さづけてとくまなま

源具親如意

あくまうはすみとくらむを要のふりもあじゆよ苦の道

徳吉今雜中

土序つ院吉筆

山原くさむしよくあくひつとせどのせがひつ

山家くすこよみはすゑ

後高松松政太政大臣

枝わせくすくじのひまきおとへ部のすすりも

大原のせきくすくとこくつとく

後法たちたたぢ

きとまむく門出まきくと大原やせうすの豆のまが尾

豆の内ほづくはづくげる

九条右大臣

徳千載雜中

やひするひのまくとくにい里ハ袖よめくもあくまくも

千玉玉葉あらの秋玉青つ内大臣

あくの豆くくにんくじくすくとくよその月の秋

尼風ノ 惠慶法師

かくまくのあくまくせくせく、教のことをいそむくのよ

じよせむくとくよくはすゑ

戒善法師

仙新拾

やまくまくとく峰するものばくとくせくとくよくはすゑ

山ちよくおのとく

新拾遺雜中

之命は所

都とまじしと云ふ事にあらにむこと自と  
いもとばくしてよる

志秀は所

まつまつとおのづかうたうがれりほ(あまや草  
題) とよみ 戒善法

くはまつまつとよみへそうせきの御船の  
後を洞院寺の八幡宮官(くわんぐう)と松  
としこと

立秋門院丹後

じゆくのとよみをもおひどくとよみ

続後山里(つづくやまのさと)

續後撰雜中

八條院の念

ちくまきとかのやまととくはいのとよみの扇  
山家風とくと 藤原隆佐

ひちくまきとかのやまととくはいのとよみの扇  
山田風とくと 藤原經衡

ひくまきとかのやまととくはいのとよみの扇  
西風とくと 大納言

ひくまきとかのやまととくはいのとよみの扇  
前大納言為家

ひくまきとかのやまととくはいのとよみの扇

たき衛守宅嗣

昔風と風があるわどく風のまゝと風とすも  
治唐ニ事十月大井山道途よりとて  
まく款よしはる太宰守植肺經信  
玉葉雜三  
らかとのえよしむとまのあへのあへのま  
谷風とてよしとてよしとてよしとてよしと  
皇太后を大々倭外  
ゆ人のまじわよしのとてよしとてよしとてよしと  
洞院接政家をよしよしよしよしと

前大納言經通

徳古今雜中  
ノ

徳古今雜中

土侍の院御襲

徳古今雜中

ノ

洞院接政家をよしよしよしよしと

九条あ内大臣

やまとまほの日うき風をくりくわの林のひだり  
塔山院御はよしよし

柱中納言

涼風のひとのひのばら風あするはよ玉そぢよける

歌一  
よすきくらべ

よすきくらべ

たのとハキシテアリテアモの事の跡うさん  
院寺院寺時時經時よりこそと

大高大丈頭捕

まかみとあめとむのとまかみとまかみと  
まかみとまかみとまかみとまかみと

後三位郡氏

じゆきくらべ  
じゆきくらべ

四條太室太后あ下門

布サムヒキヤマナカアシカシカムカム

最勝四天王院譯子ノ一筋鹿市と

慈徳大僧正

さのあわせとせんとせんとせんとせんと

毛保三毛内裏百萬

正三位家衡

おととととととととととととととと

まくらくらく  
西り法師

あまくまくまくまくまくまくまくまくまく

正治正治ノ  
ニ品親王 怪明

風といふ田中のくわせやくわせのくわせがく

山あとまなとと 茄中納と資実

事あとまなとととがまはうまことうのやま

延長七年丙未月度同ト

モニ

滝はせも憂すまきや本社のゆきつとくす  
やまきつとくす

和まか

えまとすやまくまの滝ハ後のまくまく  
山里なるひ人のまくまく

右大将道総母

もそとのくまの滝と尋牛とまくまくのまくまく  
一木

建保四年正月某日後鳥羽院侍

初御女のかくとくすりかくの滝のまくまくのまくまく

布引滝とまくまくのまくまく

高松市圓向太政大臣

まくまくのまくまくし人のまくまくのまくまく

久家太政大臣

まくまくのまくまくのまくまくのまくまくのまくまく

おもーの滝と 結因はば

おもーの滝と おもーの滝と あくまくのまくまく

新拾

里とら原とりのまことし達る

俊教教也

新拾  
川ヒトス

いはすれ川のひととおがくもとあるのれ  
せん院寺あらそ

大川あらそくもとお間ふたむ哉のまくのよや  
けを鳥とりよさる

従二位家隆

続後人小百三  
メシウス

新拾遺雜中

メシウス

上

従二位家隆

メシウス

上

建保四年院清正

西園も入道も太政大臣

おひきのひもおまくまくの間よもなまくすだら  
入を前お政内ちちの時のをもよの。通情と  
えまと

従二位家隆

くぬぎしまつもつてもも門めのくよの日がく

九条も内大臣家十ニシテ

建保院但馬

続古述懐の文

飛鳥

川のまよすくはすみかねとまよすくあくまよ

内大臣の时のをもよの。通情とえまと

入道むね改た失也

風雅難下光明峯寺入道前挾改尤太日  
神代よりもとあるよつてくらむ整もたまぬ要の事に

手ゑ玉生あふ合のう

新あたたち

さよとえくあーへらあおのうかくあまかのくわくも

寂勝四毛王院隣まで大みのひと

続後名所あきらめ

翁中納毛室家

続後撰冬

大みのじまきのねまくすくあゆみのゆぢははく

まいーらひ

併む

みすがのじのよ風をくいきの門もほくへと

みそりーまくつとくせつめいのひくくく

よしむちくにける

俊頬翁也

よかのじまきのねをくくまくわるちゆつもや湖のむ山  
くくくもじのよ月のやまとるとく

中原仰高翁也

少の西よやどる月どもくやくも川とまくもくめりも

まひーらひ

促ニ位家隆

里のよきよみのよみの川のうすも流てもねうとたのむの水

二号紀王 雅威

続後述懷翁のゆふ

續後撰雜申

うあう続後

人のよきよみの川あるとおもひ川あるほくもくせ

中納言ひよ女

徳後撰恋四中勢

新千 小のまおもとく  
がくうの展

風ふきうららかく

新千載雜上

伊勢

傳つものをそ（あへまうし）はのをとてと詠ふと  
おとづるせむとしりておとづれゆすむかせのま  
祐子内親王家かぢ

よーさま

因ふるさの川原よりまくらにまくらにまくら  
あたる朱碧惟方  
やくらまちのゆのゆとおゆまくらのゆまくら

税税赤の衣

風雅雜中

人まろ

えすたむむけつら度がまよじしらすやのれ景

あすまろ

徳吉今雜中

さとみの延のほこく、そののゆよもよ（あひのゆよもよ）

和泉寺郎

すすりおねだりゆよもよ（あひのゆよもよ）

塙の院もゆふと伝お胡は

みゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

走保ニ事内義正

後二佐家陸

う風のうの波のまきをふ老もわれのふことあらか  
屏風

花院寺觀

後拾遺雜上

入ひむねむくわくわく老も枝もせうふ葉も一とくも

併勢よく、よくけふ葉のねどくも

六条右大也家

家也

じこくちくくまゆくがふくの木も荷舟のくわせよ  
海をねとくと 仁和も入道ニふ親王元性

後拾遺雜上

國

範はくまくはあとくまくはくくにく神のすも  
文治女序入内屏風

たゞ

併勢

三條入道を大也

あふくまくまのくまくはく風とくのくとくのく

題一とくも

大納言通具

富士

風をくまくはくまくはく風はく入道のたづのまもせり  
はくもくとくと 土居の右大也家

あむくまくはくまくのくくはく風はくはくも

堀河院侍附

後拾遺雜上

千五番合

燒後撰難上題不知

桔中納中園信

燒後

綱よりきの小舟や入るゝとあらわのたうのはつてゐる  
俊頼翁

あひなせのいのほり水や、こゝそせあらわすてつてゐる  
湖を鷺と 仁和人道ニ昌親王是性  
唐崎ノ船やとましもとくおもむくちつのはつて  
西治玉多平 あた納ミ隆房  
あまうつゑひゆくもじのまじのくわまとあまう  
百舌ぶせせけふと鳥鶴とまると

源俊平

玉宝治三年五月

玉葉雜二  
あまうのひあるもまへせのいはつてゐるねうらよ

歌くと

藤原親季

はつよきの法事もとれやあめのめふ收やさまん

まえほ

乾波くとくほきくみちぬく入はのたうのはつてゐる

素俊法師

冬至ハむろの浦一ほもめドハひきくあらぐ也

よみどり

こゑひのあひのちくせんかじくくほのほきくまづく

お 挑

燒後拾 宝治百三十九

シナマサニタマノテモホトクナリハシメテモ

万有千萬をむけんとくにセアトドリニ

前大納戸基良

燒後拾遺冬

小燒後拾

あとのいのあおまきまくが風もひもほよまくせら

波もせあとす

宣太后アキラタヒ俊成

新千載雜上

の一本新千

これハ故ハシメテのあそびよつてのへ先づくは  
述情ハシメテははうるゝ御中納戸長兼  
法下ハシメテたるみとはハシメテあすのハシメテとまつむ

建仁三年内裏

正三位家胤

萬のひのうきあくのもねりうそれあくの社ハシメ体也

同四年院居玉

後二位家隆

あくのひのうきあくのもねりうそれあくの社ハシメ体也

さす船を惜ハシメテとまつむ

法下耀清

思ふよかハシメテあれハシメテ船のよかハシメテも

さすいとまつむ

藤原季子

波ハシメテくわくのひはのひくハシメテあくハシメテよまん

あまのむらさと 紳宣翁也

たおう後一物手もむれぬればとすよの橋立

志くす

萬のものもかくすく後もくはむにあまの橋立

園林院門時丹後様よしもくはむと

とよくよしよしとたてまつてけり

志くす

とよかあひゆかまふよじくせよのうのあまの橋立

京極あら葉白家よし見海士橋立とふと

え え 謂經意

とよかあひゆかまふよじくせよのうのあまの橋立

京極あら葉白家よし見海士橋立とふと

新載恋四

六帖題焉のキハ あ大納ちるを

へうのものかのせよしやうふうえあこゑあくに風

てよきよきよきよきよきよき

蘇尼隱祐

船入のまくももとくみとくみけよおとくめぬくと  
きくらす あ大作ふやく得

まくもくの浦ふ風をぬよ満つまくまくのほき船

能因法師

見三事の如くは、何處かある事  
と申す

既にこの事の如きをわざと書かれてあるのである。約舟

義安二年彦田社を会す

好る内親王家中納言

むこのほのかなだけ身もまわせ友がいあるものとて身

胞兄弟の如と 促ニ位家隆

さかがた久松の位より一月よりては後承する  
塙院寺時をもつて海道を

前中納言房

大へや法源のことをおもふのをもくとおもがれ  
雪う海湯うとむると

道濟

久のじつをあひてのをめめくとくとくは  
ニ桑右太也家麿風

妙之

じの月歎生も絶はれぬとみらぬてなる

まいしよと  
仁和入道ニ是親王覺性

改風あるとのれにあはれてアスヘアヤム同教

大宿の事とすまきの事とすまきの事

後鳥羽院侍襲

おもむくとては我をくわづの身をゆめむと  
まほに後院侍をまつ

西園ちへ通ま太政大臣  
あくねやたつまもいもゆみのゆくする月詠  
法性も入道も昇向家三千三

清牘

なまくらひまくらすや出でし月もまくらすよまくら

といまくら 好ち

ほのほのまほのほのうき見むけをかくとせやなまくら

千玉毛筆も念のまくら

嘉陽院詠前

続拾遺雜上

持やぬ持かどくのうきむかくとせよまくら

海邊よもいはる 美品は親王小林後同上晃仁

えをなむよきのせきやのまくらひまくらひまくら

述情のうせゆ ほこり絆

どものほんくあきらめむもくのまくらひまくら

海を述懐ともむを

法界献因

続後撰雜下  
みきよみゆくら

續後撰雜上

持やぬ持かどくのうきむかくとせよまくら

海邊よもいはる 美品は親王小林後同上晃仁

えをなむよきのせきやのまくらひまくらひまくら

述情のうせゆ ほこり絆

どものほんくあきらめむもくのまくらひまくら

徒ノトアリカタシテハ數カニシテ後ノ病ある  
モイシトモ 素後法は

玉簾あるいふてはの延セハ其のやういすや出るも  
すまつ

タマキモスミ梶音をもとがつましめあらわすまつ  
建保四月清和天皇

はなむねばほれ

延セガ女陰やもみまちあはせにづのとくじとよよりまは  
ヒ帖色をもゆ申小 あた納シあと家

玉葉雜二題不知

斗ぬ一本

くわすてきまつてきまつてきまつてきまつて

百ニシテハタクサ体ノシテ 指中納之園作  
タムハシミシテ近シテアハ彼のちと物ノがうけ  
多品新王 湖仁家ナニシテ

中宮大モ人主道

通本

冬はよだか一小舟にひびてはまの延モ人沖ナシセテ  
唐船足手内裏衣フニテ延セ鷺舟トコトコ

トコトコトコトコトコトコトコトコト  
參拜頭室

江中ヨリモキアハシムハシムハシムハシムハシムハシム

モイシトモ 平西半

浦ヨリモアハシムハシムハシムハシムハシムハシム

玉葉雜二題不知

トシヘバ  
かちのまゝさうづ  
ささあささど見え  
おきつちうかみ  
すまつ

源玄之

玉葉雜二

好  
也

唐く御く体よへ延年がとる身ゆうてゆく身なり  
能宣教也  
名もらひはとある二條太皇太后お持ほ  
六本  
保延元年内衣アマハヤシと海と肺カニと  
と  
まと洋ヨウを長

海と肺カニとと  
權大納カミナリ通方

タキミの後悔アフタヒのあとと後アヒタをひよよせちかうる事アヒタ  
きは深アハシくま八月内衣アマハヤシと小口前肺カニ  
と

そつ太政大臣

ソトヤいとこの日と時アヒタと後平井アモイ小毛アモイやまらん  
正首アモイのあく隊アムラはとよもとのをとよもとてよもとらす  
正治正多アモイ」 後事極アモイ改太政大臣

続後拾遺恋一題不知

徳後於

この手の小こねのねづかふうのゆゑとあくらに流

まくらもと あたぬきゆゑ

風のまよひのまよひほ

やまとくのりの海さの舟

内  
徳古

徳古今  
雜下

